

各種資料

3 条件 8 項目

昭和四十五年五月二十五日の名古屋市議会都市開発整備促進委員会及び建設清掃部会で次のような要望が付された。

3 条件

1. 都市高速道路に面する沿線住民には、直接的な利益を受けることなく、むしろ実害をこうむることに
なると考えられる。従って都市発展の犠牲となるこ
れらの沿線住民には、従来の事業による補償基準に
こだわらず、犠牲度を十分救済できるような格別の
配慮をほらうべきである。

2. 都市高速道路の建設は今後十カ年に亘って施行さ
れる予定である。しかしながら、発展する都市の状
況並びに輻輳する交通量等から、将来の実情に応じ
て変更の必要が生ずることも考えられる。従って、
計画決定後といえども当初決定にこだわらず最善の
方途を講じて、万全の対策を樹立し、建設にあたる

よう努力を払われたい。

3. 直接住民の利便に供する公通機関の設置等の外、
都市高速道路と相互に関連する路線網の充実を図り、
将来の都市交通に対応出来るよう静極的な努力を払
われたい。

8 項目

昭和四十七年三月二十二日、県議会土木建築委員会で名
古屋都市高速道路の基本計画を審議したさい、住民を守る
立場から今日の状況を予想して3条件を附した。しかし、
現状は当時の予想をはるかに上回り光化学スモッグ等によ
る交通公害などの発生をみた。しかるが故に3条件が明確
に実施されなければ認めるわけにはいかない。
更に現下の問題として次の事項について十分な配慮をす
べきである。

1. 住民の理解と納得を得る。
2. 大衆輸送機関の早期建設（高速鉄道、バスレーン、
パークアンドライド方式、公共駐車場の充実）。
3. 第二環状線の早期完成。
4. 渋滞地帯の解消。
5. 交通安全、交通規制の強化（生活道路確保）。

6. 公害の防止。
7. 都市環境との調和。
8. 総合交通対策の確立。

高速道路了承の付帯条件

昭和五十一年六月一日市議会建設環境部会は、次のような付帯条件及び必要事項を付して都市高速道路変更原案を賛成多数で了承した。

付帯条件

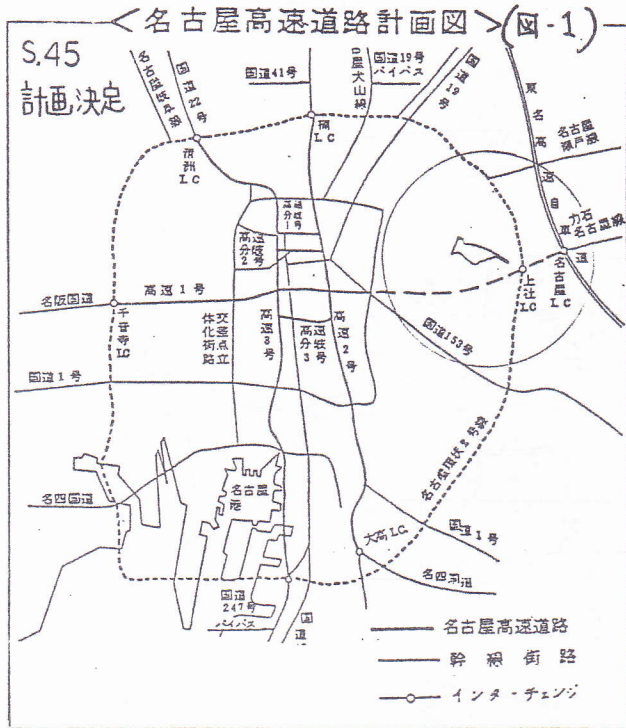
1. 高速1号線都心部（中区大須一丁目～中区丸田町三丁目）約1.7kmの区間を高架構造で連結すること。
2. 高速1号線東部千種区鏡ヶ池通4丁目以東名東区猪高町大字高針地内まで約3.5kmの計画については、環状2号線専用部の事業計画が確定するまで留保する。

要望事項

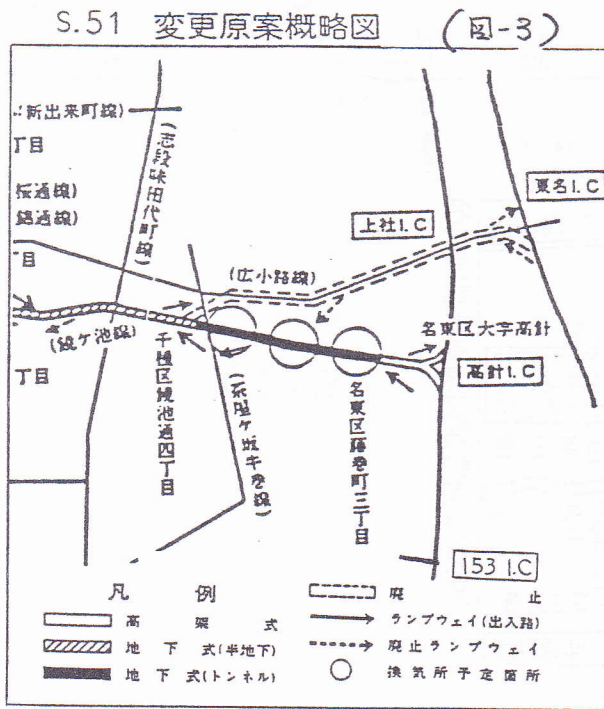
今回の計画変更後といえども社会情勢の変化を見ながら最善の方途を講じ対処すること。

高速道路の主な経緯

- 昭和36 「運輸省都市交通審議会」名古屋都市高速道路の必要性強調。
- 45 名古屋都市高速道路公社設立。
都市高速道路の都市計画決定。 …… (図1)
- 48 1号線東部変更（東名インターまで接続）。
市議会・高速道路関係予算の一時凍結を決議。
総額一千五百億、環状2号線66・3kmをS60年までに完成。
- 49 本山市長「都市高速道路計画を総合的に見直し建設する」旨の見解発表。
- 50 市長、都市高速道路検討素案（1号線の中心部直結をやめ、藤巻ルート高架案Ⅱのちにトンネル案）を発表。
- 51 都市計画変更（藤巻ルートとなり留保）。 …… (図3)
- 54 2号線（高辻―大高10・9km）供用開始。
- 60 2号線（東新町―高辻）分岐3号（鶴舞南―東



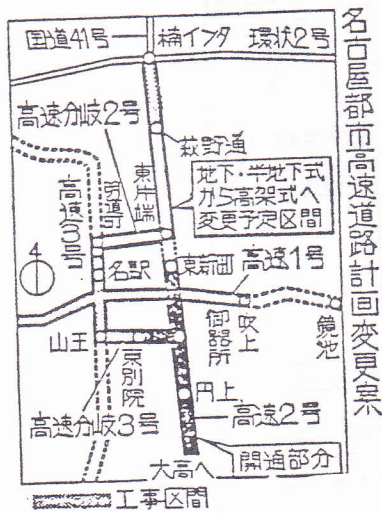
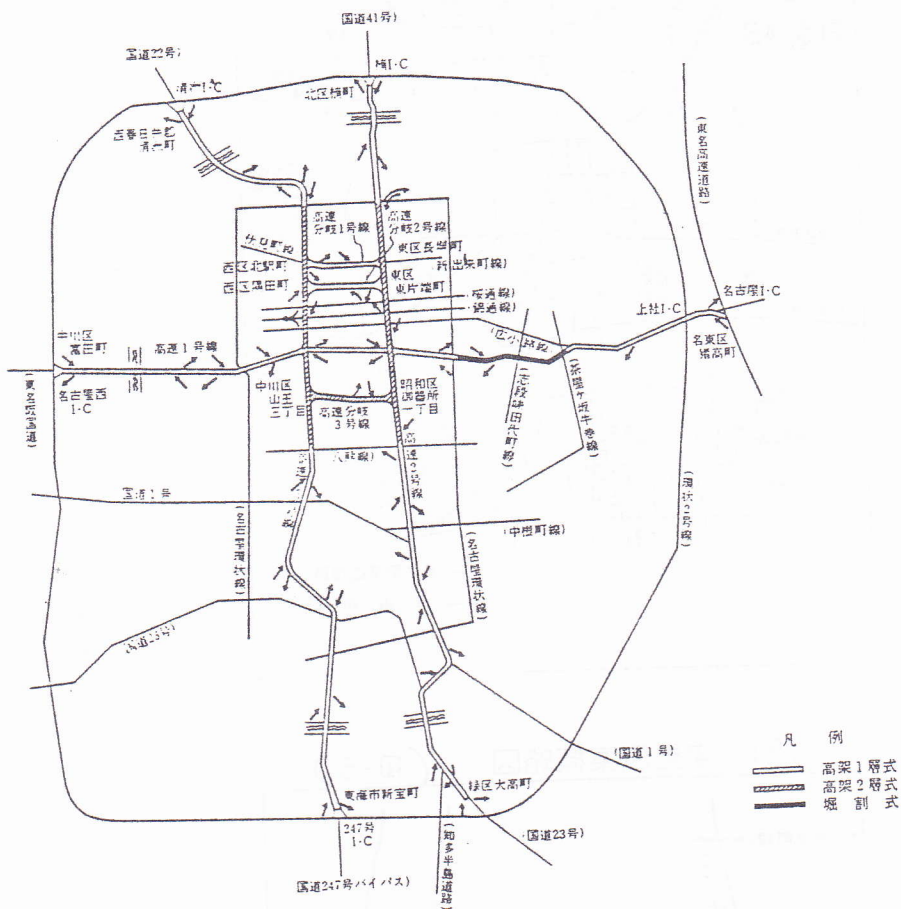
別表(供用開始)の62年まで、18年まで41.3
 幅さ三十五百三十三億で建設(図-4)
 2号線北部、分岐3号を、地下半地下から高架
 にする変更案発表。
 ……(図-5)



6
 2号線(東新町-高辻) 分岐3号(鶴舞南-東)

旧計画における計画図

(図-2)



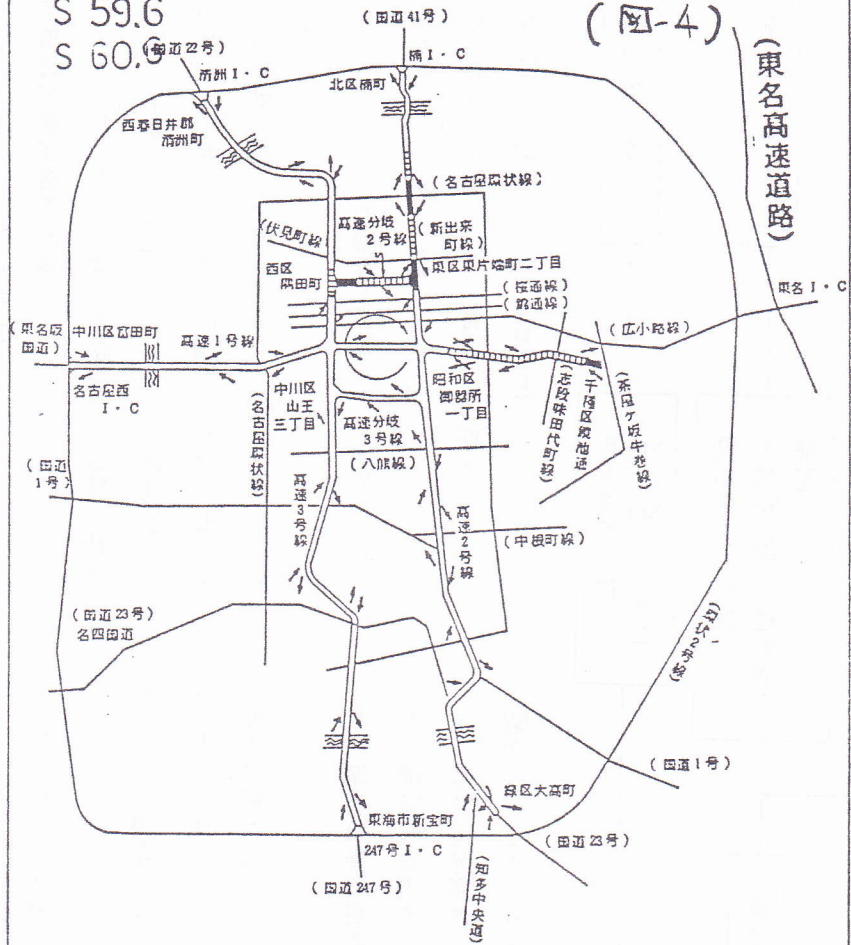
(図-5)

< 名古屋都市高速道路計画図 >




S 59.6
S 60.6

(図-4)

(東名高速道路)



凡 例

-  高架式
-  掘削式
-  地下式

環境影響調査の経緯と概要

I 第一回環境影響調査の経緯

昭昭五十三年二月、名古屋高速道路公社（以後公社と略す）から排気塔建設予定地においてガス拡散実験をしたい旨、申し入れがあった。突然の申し入れに対し、会は実験の一時延期を申し出るとともに、市計画局に次の要求をした。

- 一、留保中のルートでの調査を行うことの説明が必要。
- 二、窓口を公社ではなく計画局とする。
- 三、実験の目的、内容、方法を事前に説明すること。
- 四、調査には住民も立ち合わせる事。

その後、三月に説明会の開催を経て、三日間の現地実験が実施された。実験内容はトレーサーガスによる大気拡散と、ノンリフトバルーンによる気流動態調査である。実験結果は気象調査に基づく逆転層についての検討等とともに、十二月に結果説明会、五十四年四月に勉強会の形で会に対し報告説明がなされた。

II 調査報告の概要

1. 環境影響調査のフロー（左図）
2. 環境現況調査

昭和五十二年～五十三年の植田山での実験結果、昭和五

